

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構

外国人児童生徒教育推進ユニット

日本語プログラム開発事業

高等学校部会

活動・ユニットプラン

プログラムA

「校則について

知ろう・話そう」

青木 由香（荒井学園高岡向陵高等学校）



本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

プログラムA 生活のための日本語

『ガイドライン』プログラムAのシラバス「学校生活」に該当

目指す生徒像

- (1) 多様性を強みに、他者と協働して、地域・社会の共生を推進する生徒。

時間 50分×3回 (科目名の例：日本語基礎)

形態 クラスレッスン (クラス規模：小グループ)

1 対象生徒 について

年齢 : 15歳

学年 : 高校1年生

滞日期間 : 2年目

日本語の力 : ステップ (3)

包括的なことばの力 : ステージ (E)

文科省「ことばの力のものさし」

2 目標と評価

目標	評価
(1) 校則で禁止されている物品や行動などの名称や禁止の表現を理解し、校則の内容を正しく捉えることができる。(知識・技能)	活動2のやりとり、活動4のワークシートで評価
(2) 母国・地域での経験も踏まえながら現行の校則について批判的に考え、それを日本語で表現することができる。(思考・判断・表現力)	活動3のやりとりや発表、活動4のワークシートで評価
(3) 他者への理解を深め、相互の差異を受容しつつ、集団としての秩序を維持するための校則やルール役割を考えようとする。(学びに向かう力・人間性)	活動1のやりとり、活動3のやりとりや発表で評価

3 言語事項

1時間目	<p>校則の導入、頭髪・服装について</p> <p>語彙：校則、禁止、守る、破る／ピアス、カラーコンタクト、化粧／ジャケット、ネクタイ、シャツ、リボン、ベスト、スカート、ズボン、ベルト、靴／文化、習慣、宗教、就職、規律</p> <p>表現： ・～てはいけません ・～てもいいです ・～すると、～（く/に）なります ・なぜ～のでしょうか ・なぜなら～からです ・～ように／ために</p>
2時間目	<p>携帯電話、SNS、通学等について</p> <p>語彙：携帯電話、電源、マナーモード、SNS、写真、動画、アップロード</p> <p>表現： ・～ないでください ・～なければなりません／～なくてもいいです</p>
3時間目	<p>通学・問題行動について</p> <p>語彙：自転車、許可ステッカー、鍵、スクールバス、定期券／いじめ、邪魔、壊す、暴力・暴言、タバコ、お酒、外泊、パチンコ、無免許運転、万引き、薬物</p> <p>表現：もし～たら、～</p>

4 活動展開 <1時間目>

学習活動（生徒の活動）

- 1 テーマについて知る。
 - ・ 就職の面接場面で、制服の着方から、社会で「ルール」を守ることを意識する。
 - ・ 校則の必要性を考える



○言語運用例（やりとり、発表の表現等）

T：（イラストを示して）あなたは会社の社長です。就職の面接をします。どの人がいいですか？どうしてですか。

S1：上の右の人。制服をちゃんと着ていて、仕事もできると思うからです。

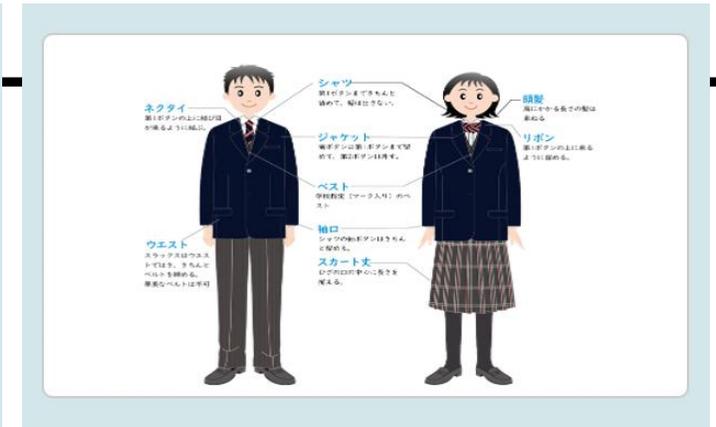
S2：わたしは、下の真ん中の人もいいと思います。かわいくて、元気な感じだからです。

S3：下の左の人がいいです。ルールを守る人がいいからです。

T：プライベートは好きな服がいいですね。でも、会社も学校も、ルールがありますね。高校のルールを「校則」と言います。〇〇高校の校則を守りましょう。

4 活動展開

<1時間目>



学習活動（生徒の活動）

- 2 内容・表現の提示、発話練習
- 具体的な校則のスライドを見ながら、名詞＋動詞のコロケーションと「～てはいけません」「～てもいいです」の文型を学び、校則の具体的な内容を確認する。
 - 学んだ表現を使って、校則についてやりとりする。

○言語運用例（やりとり、発話時の表現等）

- T: ピアスをつけます。ダメです。ピアスをつけてはいけません。
- S: ピアスをつけてはいけません。
- T: ふつうのコンタクトは、いれてもいいです。色のないリップは、ぬってもいいです。
- S: ヒジヤブをつけてもいいですか。
- T: はい、つけてもいいです。

4 活動展開 <1時間目>

学習活動（生徒の活動）

- 3 出身国の学校の校則との違いについて話し合う。
- ・ 出身国との違いについて、ペアまたはグループで話し合って考えを深める（母語OK）
 - ・ 話し合ったことを日本語で、紹介し合う。
- 4 学んだことをまとめる。
（ワークシート記入）



○言語運用例（やりとり、発話時の表現等）

- T：Sさんの国の学校ではピアスをつけてもいいですか。
- S：はい、私の国ではピアスをつけてもいいです。／いいえ、私の国ではピアスをつけてはいけません。
- T：なぜ日本の学校ではいけないのでしょうか。
- S1：なぜなら、文化が違うからです。
- S2：習慣も関係があるかもしれません。
- S3：おしゃればかりすると、勉強の時間がなくなるからです。
- S4：お金が必要になって、あぶないアルバイトをしないようにです。

5 活動の工夫

- ✓就職面接場面で、立場を変えて服装（制服の着方）に着目させ、プライベートと学校・社会生活を区別し、社会・学校のルールを守ることの重要性に気づけるようにする。
 - ✓学年集会のスライドを活用し、日本語の学習と特別活動の学習とを関連付けて、理解を促せる。
 - ✓国による校則の違いについて話し合い、各国・地域や各人による文化や価値観の違いに気づき、その違いから校則が何のためにあるのかという疑問をもつことで、意欲的に話し合いができる。
 - ✓話し合い（批判的に考える）により各校則の意義を理解した上で、ワークシートに学んだ表現を使って校則を書き表すことで、校則の内容を印象付けることができる。
-

6 教材の工夫

- 初めて耳にする語彙も多いので、できるだけイラストや写真、実物などを多く用意する。
- 学年集会で使用されたスライド（校則の内容の説明）と同じものにルビを振る。
- ワークシートは構成をシンプルにし、使用する表現を明記して、何を書けばよいのか一目でわかるようにする。
（それだけでは物足りない生徒のために、自由記入欄も設ける。）

2. 頭髪について

・パーマ、染色、脱色等、ピアス、カラーコンタクト、化粧禁止

3. 服装について

・制服の正しい着用
ネクタイ、リボンの正しい着用
第1ボタンを留める
袖のボタンを留める

ネクタイ、シャツ、スカート、リボン、袖のボタン、第1ボタン、襟、袖口、裾、足さき、靴、手袋、帽子、眼鏡、ピアス、カラーコンタクト、化粧

・スカートは折り曲げたり、切ったりしない
（購入してもらいます）
・靴は、スニーカー、運動靴または、革靴
華美なものは避ける（赤、オレンジ、ピンクなど）

※学校とプライベートの区別※



〇〇高等学校
こうそく 校則を知ろう！

NG「～はいけません」	OK「～てもいいです」

あなたの国とのちがいがい/思ったこと

7 対象・実施条件による調整のアイデア

- できれば学年集会の前に本ユニットを実施する。話し合いのみ集会後に行うのもよい。
- 来日間もない生徒が対象の場合は、名詞＋動詞のコロケーションと「いい／だめ」（「～てはいけません」などの文型を用いない）でこの活動案の内容を進めてもよい。
- 話し合いでは、活発に議論したり考えを深めたりすることを優先し、母語や英語等共通言語がある場合はその言語で話したり、翻訳アプリを使ったりすることを推奨する。全体共有では、その内容を日本語で表現できるよう、教師が適宜言い換えなどしてサポートする。
- 毎回テーマを決めて校則を取り上げるプランだが、生徒も校則も多い場合には、グループごとに異なるテーマの校則を取り上げ、全体で共有するというアレンジも可。
- 校則の理由についてどうしても納得できない場合も多いと思われる。理由を生徒指導担当の先生に聞きに行くという活動に繋げてよい。